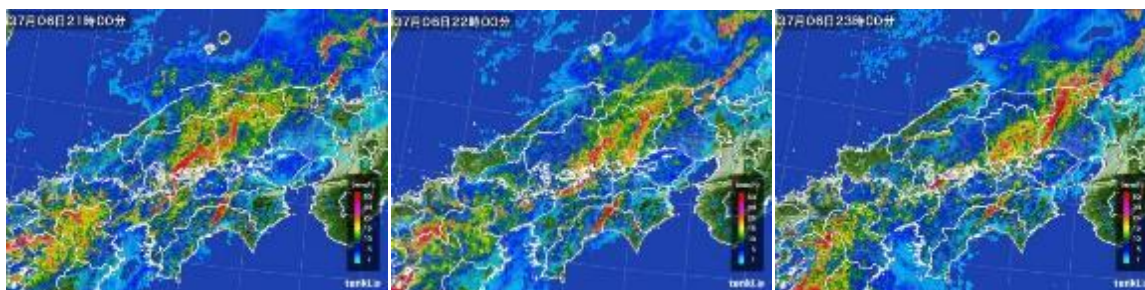


第 1 章 気象と出水の状況

1 気象概況

7月5日から8日にかけて、西日本に停滞した梅雨前線に対し、南から温かく非常に湿った空気が流れ込み、前線の活発な活動が続いたため、西日本から東海地方を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨になった。



(7月6日 21:00)

(7月6日 22:00)

(7月6日 23:00)

2 大雨特別警報

1府10県に発表（岐阜県～長崎県 H25年8月の運用開始以降最大）
広い範囲でこれまで経験したことのない重大な危険が差し迫った異常な状態となった。

7月6日には中国地方で初めて3県同時に発表（広島県，岡山県，鳥取県）され、同日21:35総社市にも発表された。

3 気象警報等の発表状況

情報	発表	解除
大雨・洪水注意報	7月5日 10:33	切替
大雨警報	7月5日 15:39	7月8日 22:41
洪水警報	7月5日 18:30	7月13日 19:35
土砂災害警戒情報 第5号	7月6日 09:25	7月8日 13:50
大雨特別警報（土砂災害）	7月6日 21:35	7月7日 15:10

4 降水量

今回の豪雨は、46年前に大きな被害を出した昭和47年7月災害の時とよく似ており、少し時期は早いが典型的な梅雨期末期の気圧配置といえる。

7月4日の降り始めからの総社観測所累計降水量298mmで「昭和47年7月豪雨」の5日間291.5mmを上回った。

全ての観測所で、大雨特別警報発令基準のひとつである48時間雨量の数値

(48時間で217mm)を大幅に超えたが、降り方は、集中豪雨的な強い降り方ではなく、3時間の記録で見ると最大値は65mm(7日21時~24時美袋)1回のみにとまっている。つまり、断続的に長時間降り続いた結果、小河川が満水状態となり、さらに高梁川の水位超過と相まって、内水氾濫又は越水が発生したものと推測される。

【雨量】連続降り始め5日4:00~ (mm)

	総社	美袋	豪溪	久代	足守
7月4日	15	11	21	13	15
7月5日	68	80	67	63	62
7月6日	141	162	144	133	133
7月7日	74	80	72	76	66
7月8日	0	3	1	1	1
計	298	336	305	286	277

[比較] S47. 7災害

	総社
7月9日	291.5
7月10日	
7月11日	
7月12日	
7月13日	
計	291.5

7月6日から7日の総雨量は美袋で242mmを観測し、ハザードマップで想定している2日間の総雨量248mmに匹敵した。ハザードマップでは「概ね150年に一度の大雨」という表現をしているが、明治26年10月の豪雨災害から125年経過しているので、想定どおりと言える。

【24・48時間 最多雨量】 (mm)

	総社	美袋	豪溪	久代	足守
24時間	181	207	180	169	169
48時間	273	297	262	254	250

【24時間雨量】6日9時~7日9時 【48時間雨量】5日9時~7日9時

※ 岡山県地方気象台発表(48時間雨量 7月7日 19時まで)

観測史上最大記録: 20地点/全25観測点(残り5地点も7月最大)

新見392.5mm, 高梁314mm, 倉敷260mm,

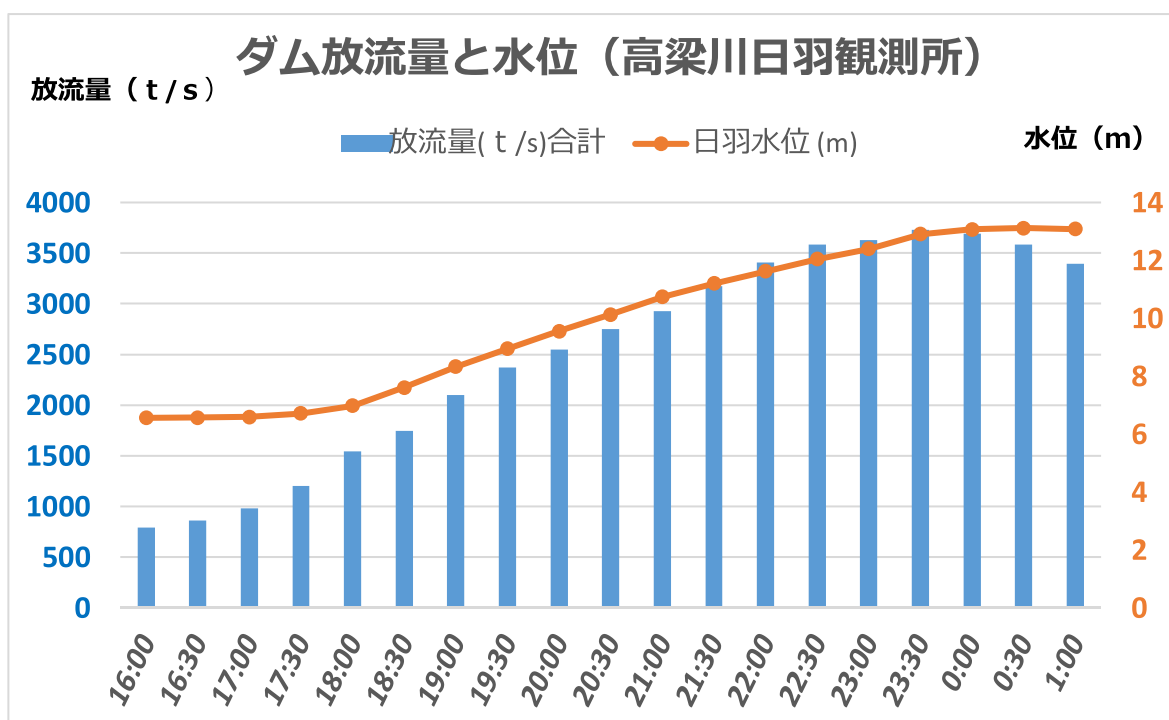
総社234mm, 美袋249mm

5 指定河川洪水予報発表状況（高梁川）

発表日時	号数	種類
7月5日 22:10	第1号	高梁川氾濫注意情報
7月6日 00:50	第2号	高梁川氾濫注意情報解除
7月6日 01:35	第1号	高梁川氾濫注意情報
7月6日 03:50	第2号	高梁川氾濫注意情報解除
7月6日 20:00	第1号	高梁川氾濫警戒情報
7月6日 21:45	第2号	高梁川氾濫危険情報
7月6日 23:10	第3号	高梁川氾濫危険情報
7月7日 01:40	第4号	高梁川氾濫危険情報
7月7日 13:50	第5号	高梁川氾濫警戒情報
7月7日 15:35	第6号	高梁川氾濫注意情報（警戒情報解除）
7月7日 22:55	第7号	高梁川氾濫注意情報解除

6 ダム放流量と水位（高梁川日羽観測所）

高梁川の水位は、降り続く雨に上流ダムの放流が相まって急上昇し、7月7日0:30日羽観測所で最高水位13.12mを記録した後、測定不能となった。



時刻 (7/6～)	放流量(t/s) (本市に影響が大きい4ダム)					日羽水位 (m)
	千屋ダム	河本ダム	小阪部川ダム	黒鳥ダム	合計	
16:00	31.22	96.08	80.18	585	792	6.56
16:30	34.14	94.91	80.18	649	858	6.57
17:00	39.28	96.63	85.41	758	979	6.59
17:30	46.74	157.60	85.41	911	1,201	6.71
18:00	56.34	246.43	249.63	991	1,543	6.98
18:30	66.71	335.97	249.63	1,132	1,748	7.61
19:00	77.77	391.77	325.44	1,304	2,099	8.33
19:30	89.11	400.02	325.44	1,558	2,373	8.95
20:00	93.94	419.80	361.74	1,671	2,546	9.55
20:30	99.83	444.00	361.74	1,847	2,753	10.13
21:00	107.12	487.82	382.75	1,948	2,926	10.74
21:30	114.93	529.74	382.75	2,148	3,175	11.20
22:00	122.49	555.26	416.72	2,312	3,406	11.62
22:30	128.62	585.02	416.72	2,455	3,585	12.04
23:00	133.18	624.02	417.71	2,454	3,629	12.40
23:30	137.12	746.82	417.71	2,430	3,732	12.91
0:00	139.88	686.28	402.65	2,461	3,690	13.07
0:30	142.03	624.61	402.65	2,417	3,586	13.12
1:00	143.52	623.72	365.55	2,265	3,398	13.08



水内橋



伯備線の状況 (作原～美袋)



※ 高梁川水系では5河川12観測所で氾濫危険水位を超過した。

◎ダムの事前放流について

平成 30 年 7 月豪雨において各地では、大雨に加え上流のダム放流によって下流域で河川の水位が急激に上昇し氾濫、決壊が発生した。高梁川流域での被害の低減に向け、平成 30 年 12 月以降、国土交通省、農林水産省、岡山県、中国電力、そして下流 4 市長が一堂に会し、「ダムコントロール会議」を開催した。

そして、今年の出水期から、大雨が予測される場合、中国電力、岡山県が管理するダムにおいて、事前放流を行うとの結論に至った。

特に、中国電力が持つ新成羽川ダムが、利水ダムでありながら事前放流に取り組むことは、全国的にも異例で、画期的なことである。事前にダムの水位を下げ、空き容量を確保することで、放流量が減少し、高梁川の水位の低下や避難する時間の確保が一定程度見込まれ、下流域の洪水被害の低減につながるものである。



新成羽川ダム
(提供 中国電力)

◎法令に基づく指定

災害救助法	7月 5日 適用
特定非常災害(※1)	7月 14日 指定
激甚災害(※2)	7月 27日 指定

(※1) 特定非常災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する法律

(※2) 激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律